



HATURATU  
はつらつ

私たちが現在住んでいるタイの首都バンコクは、大都会です。古里の東北部は農村地帯ですが、厳しい暮らしが続いたため、家族みんなで、都会のかたすみでギリギリの生活を送っています。  
繁華街で遊んでいると、「ストリート・チルドレン」の私たちに同情して、ときどき小銭を恵んでくれる人がいます。「コップン・カー！」(ありがとう)と両手を合わせてお礼を言い、ジュースや菓子を買って仲間と分けます。その幸せに、おもしろいのはじめちゃうの。  
(写真・文 平早 勉)

## 全国児童館おりがみ作品展 10月26日～11月17日 こどもの城ギャラリー

「全国児童館おりがみ作品展」が、第9回「おりがみカーニバル」にあわせて10月26日～11月17日に(こどもの城)ギャラリーで開かれます。全国の児童館・児童センター24館から、「私たちの街」をテーマにした力作が集まります。今月の「こどもの城ニュース」では、出品作品を制作中の久保田町児童館(佐賀県)と野木町立新橋児童館(栃木県)の活動を紹介します。

「全国児童館おりがみ作品展」は、「こどもの城」で展示のあと「動くこどもの城」のプログラムとして全国で巡回展示。佐賀県では、昨年の巡回展示にあわせて県内の児童館に呼びかけ「佐賀県児童館おりがみ作品展」が開催されました。

### “児童館育ち”の短大生が指導

### 豊かな自然と大空に浮かぶ熱気球のどかな田園風景を折り紙で

久保田町(佐賀県)は佐賀平野のほぼ中央に位置する田園の町。ムツゴロウがいる有明海に面しています。また、熱気球(バルーン)の里としても知られ、大会が開かれるときには世界中からたくさんの人が集まってくる。豊かな自然と大空にゆたかりと浮かぶバルーン—それが、久保田町児童館の作品「日本—バルーンの飛ぶ町“くぼた”」です。

折り紙作りを指導しているのは、ボランティアの夏秋あづささん(短大1年生)。毎回20人ほどの子どもたちが集まります。いつも遊びに来ていて、夏秋さんの後継者になってくれそうな子どももいます。児童館活動のなかに折り紙が定着しています。

元幼稚園教諭のお母さんから折り紙の手ほどきを受けた夏秋さんも、小学校のときから、折り紙を持って児童館に遊びに来ていました。高校生になってからは「折り紙のお姉ちゃん」として、毎週1回子どもたちに折り紙を指導。高校2年生のときには日本折紙協会の講師の資格もとりました。

「短大に入ってから、授業の関係で2週間に1回ぐらいしかこれなくなりました」と、ちょっと残念そうな夏秋さん。「一人が分からなくなると、私に折らせたりすると、甘えてみんな寄ってくる。全部折らなければならなくなると、きつかったりするけど、児童館で折り紙で遊んでいるのが楽しくて。私にとっては、落ち着ける場所です」。

日常の活動も作品展の出品作も、夏秋さんが中心。「無理な注文も、なんでも可能にしてくれる。これはできないですよーって言わない」と児童館スタッフ。信頼も厚い。今回の出品作でも、ムツゴロウを折り紙でどのように表現するか、子どもたちにどのように参加してもらうか、工夫を重ねていました。

「折り紙には、一枚の紙から“かたち”ができあがっていく、不思議さがあります。みんなとも交流できるし、文化の一つだと思う。ぜひ、子どもたちへ伝えていきたい」と児童館生員の江口英子さん。



「あづさお姉さんが、やさしく教えてくれるよ」

### 【久保田町児童館(佐賀県)】

佐賀市の西隣にある久保田町は、東西2Km、南北7Kmの細長い町。町のほぼ中央に児童館があります。付近には、保育園、小・中学校、町役場などがあります。1,819㎡の敷地に延べ床面積289㎡の平屋建て。ステージを備えた遊戯室(集会室)、児童クラブ室、ロビーなどがあります。中心となって運営を担当しているスタッフは3人。開館日は原則として、月～土曜日。開館時間は、4～10月が午前9時～午後6時、11～3月が午前9時～午後5時。



「私たちがみんなで、おりがみ作品を作っています」

### 巡回展にあわせ「佐賀県児童館おりがみ作品展」を開催

全国の児童館に集う人たちが作った作品を佐賀の人たちにも見てもらおうと、「全国児童館おりがみ作品展-佐賀県巡回展」を今年5月1～8日に、佐賀県生涯学習センター/女性センター「アバンセ」で開催しました。久保田町児童館のほかにも大和町立春日児童センターも出品していたこともあり、佐賀県児童館連絡協議会にはたらきかけ、県内の児童館も参加する「佐賀県児童館おりがみ作品展」を同時に開催することにしました。「折り紙」をきっかけに、交流の輪が広がっていったのです。呼びかけに応じて8館が参加、合計29作品を展示する「おりがみ作品展」になりました。テーマは各館の自由。「おくんち」(唐津市外町児童センター)、「ずっとずっとこんな海で泳ぎたいな」(鳥栖市児童センター)など、それぞれの土地柄をいかした作品が集まり、展示されました。

※「全国児童館おりがみ作品展」は、「こどもの城」で展示されたのち、「動くこどもの城」の事業として、全国で巡回展示しています。

# 折り紙で「私たちの街」

### 前回の経験いかして作り方を工夫

### 緑と太陽の町・野木 サンサンと輝く一流のいななかまち

野木町(栃木県)の町の花はヒマワリ。「緑と太陽の町・野木町」のシンボルです。野木町立新橋児童館の作品タイトルは「サンサンと輝く一流のいななかまち」。明治23年に作られ、国の重要文化財に指定されている「ホフマン式の煉瓦窯(れんががま)」の高いえんとつを背景に、たくさんのヒマワリが咲きほこっています。

制作途中の作品は、遊戯室に置かれていていつでも手を加えることができます。新橋児童館の子どもたちが出品するのは、今回が2回目。昨年の壁面作品作りの経験をいかした作品作りをしています。

「昨年は、折り紙を台紙にはりつけながら作っていったんです。そうすると、後ではがせなくなってしまっていて……」と伏木ミサ子館長。そこで、今回はボール紙で厚さ3cmほどの台座を作り、針金などで刺して止められるようにしました。



赤ちゃんを運れたお母さんもお手伝い

何回でもやり直しができ、これによし、となったらボンドで固定するのです。「最初は大きいものしか折れない。小さく折ると、まわりと合わないのがわかるので、次は小さいものを折るようになります。作りおとして、そっと取り替えている子もいます。また、本で調べて別の折り方をしたもの置いておくと……「いいじゃないか」と、それをみんなでまねをしていきます」。

でき上がりの姿を確かめながら作品作りができるので、色や形、折り方などを考えた、工夫したり、作る楽しさが深まっています。「しゃべるのが苦手で、性格のおとなしい子も作品作りに参加。折ったものを見ると、自分を主張しているなあ、と感じます」と伏木館長。気づかされることもあると言います。

「学童クラブの子どもたちは毎日、児童館に来ます。何か目的をもった活動ができないかと考えていたところ、全国児童館おりがみ作品展の話聞いて、参加しました。昨年は壁面作品だったんですが、他の児童館の作品を見て、ぜったい立体作品のほうがおもしろいと思って、今回は立体にしました。子どもも指導する大人も夢中になって……これがなかったら、夏休み中はなにをしていたのかな……。目的をもって遊ぶことの大事さを感じました」。

新橋児童館では、偶数月に「おりがみで遊ぼう」を行っています。テーマを決めて、季節にあった折り紙を楽しんでいます。「最近の子ども向けの折り紙の本の折り図は、分かりやすくできているので、小さな子どももそれを見ながら折っています」。伏木館長は、

折り紙などを楽しむ地域のお年寄りの集まりにも参加して情報集め。「指導する「このヒマワリは私が折りました」人によって、折り方、説明のしかたが違うので、勉強になります」。

### 【全国児童館おりがみ作品展】参加児童館

- 【壁面作品】ふれあい児童館(北海道・白糠町) / 盛岡市立月が丘児童センター / 秋田市立土崎児童館 / 静岡県安東児童館 / 久保田町児童館(佐賀県) / 大和町立春日児童センター(佐賀県) / 川副町児童館(佐賀県) / 西之表市立美浜児童センター(鹿児島県) / 西原町立西原児童館(沖縄県)
- 【立体作品】大鰐町中央児童館(青森県) / 福島市東浜児童センター / 野木町立新橋児童館(栃木県) / 上福岡市児童センター(埼玉県) / 川口市立芝児童センター(埼玉県) / 石川県立中央児童館 / 金沢市立三和児童館 / 金沢市鞍月児童館 / 静岡市西奈児童館 / 神戸市立榎谷児童館 / 姫路市立北児童センター(兵庫県) / 鳥栖市児童センター(佐賀県) / 大分市旭町児童館 / 九重町児童館(大分県) / 西之表市立かもめ児童館(鹿児島県)

### 【野木町立新橋児童館(栃木県)】

野木町は栃木県のいちばん南にある、人口約26,000人の小さな町。新橋児童館は、JR宇都宮線(東北本線)野木駅から徒歩5分ほどの住宅地のなかにあります。新橋小学校に隣接し、約700㎡の敷地に建築面積約243㎡の平屋建て。60㎡の広い遊戯室を中心に、工作室、児童クラブ室、図書室、集会室などがあります。中心となって運営を担当しているスタッフは3人。休館日は日曜日・祝日、第2・4土曜日、年末年始。開館時間は、午前8時30分～午後5時。



10月26日～11月17日に  
「第9回おりがみカーニバル」  
こどもの城ギャラリー

第9回「おりがみカーニバル」(日本折紙協会・こどもの城の共催)は、10月26日～11月17日(10月28日、11月5・11日は休館)にギャラリーで開催されます。開場時間は(こどもの城)の開館時間と同じ。

公募展「おりがみカーニバル」の入賞作品のほか、日本折紙協会が所蔵している作品を展示します。なお、期間中の土・日曜日、祝日には、だれもが参加できる折り紙遊びのワークショップも開催されます。

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE **FUJITSU**

きれいな花も豊かな実りも、いい根っこから。  
環境に配慮したモノづくりは、いい部品から。  
富士通は、部材の調達からグリーンです。  
環境に配慮した製品をお客さまにおとどけるには、環境負荷の低い部品や材料を調達することが、とても重要になります。  
富士通では、こうした部材を購入するため、独自のガイドライン「富士通グループ グリーン調達基準」を設け、主に化学物質の規制、リサイクルのしやすさ、省エネルギー対策などの基準値をクリアした部材の調達につとめています。  
富士通のモノづくりは、厳しい基準をクリアした部材の調達から、はじまります。

すべてをグリーンに  
グリーン調達から環境を考える話  
富士通株式会社 環境本部  
〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 TEL.044-754-3413  
©富士通の環境広告シリーズは、こちらをご覧ください。 ad.fujitsu.com

## 根っから、グリーンです。

02  
Member of Dow Jones Sustainability Index  
富士通、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ株式指標の環境分野で3年連続1位。

富士通は、2001年米国ダウ・ジョーンズ社によるサステナビリティ株式指標のコンピュータ部門で3年連続トップにランキングされました。特に、環境への理念や経営姿勢はもちろん環境会計の実施、グリーンプロダクトの開発、ゼロエミッション工場の実現など、環境分野での活動が高く評価されたためです。  
＜ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ株式指標＞ 世界314国、2500社の中から抽出したトップ企業約300社を対象に、持続可能な企業の株主価値を1999年より毎年発表。環境、社会、経済の3分野から企業の持つ持続可能性(Sustainability)を総合的に評価し、将来にわたる企業が存続、発展可能かを判断する指標として注目されています。

【こどもの城】開館記念 ファミリーウィーク2002 10月26日~11月4日

家族で楽しむ遊びがいっぱい

11月1日は【こどもの城】の開館記念日。10月26日~11月4日(10月28日は休館)は「ファミリーウィーク2002」特別期間で、遊びをととして家族のコミュニ

ケーションを深めてもらおうと、スポーツ遊び、音楽遊び、造形遊び、映像・科学遊びなど、いろいろな遊びのプログラムを用意しました。主なプログラムは下記のとおり(都合により変更することもあります)。11月1日は18歳未満の子どもの入館料は無料。

親子三代 みんなでレクリエーション 10月27日、11月3・4日/11~12時/体育室 3~6歳の親子を対象に、ふれあい体操、力試し、鬼ごっこなど。

ドキドキ! アスレチック 10月26・27日、11月2~4日/2時と4時/体育室 力試し、鬼ごっこ、レクリエーションなど。ゲーム以外の時間はフライングディスク(26日と2日は2時のみ)。

第9回 親子体験ワークショップ 10月22日~11月4日/開館時間中/造形スタジオ 親子で造形遊び。子どもだけで作るコーナーもあります。

第17回 造形スタジオ展 11月1~24日/開館時間中/造形スタジオ 昨年11月から今年の10月までの活動プログラム展。

0歳~1歳6か月の子どもの親を対象とした、自由な交流の場「赤ちゃんサロン」(原則として、毎月2回、火曜日)のスペシャル版を中心に、親子向けのプログラムを集めた「赤ちゃん大集合」が10月30日に開かれます。

こどもの城アドベンチャー(第1・3土曜日) ボランティアが考えた新プログラム始まる

さまざまな形で【こどもの城】を支えているボランティア。9月から、夏休みなどの学校休みや開館記念ファミリーウィークなどの特別期間を除く平常期間に定期的に行う2つの活動をスタートさせました。「こどもの城アドベンチャー」(第1・3土曜日)と「つくってあそぼう!!」(第1・3日曜日)の2つ。1回目の活動が、9月21日と9月15日にそれぞれ行われました。

「こどもの城アドベンチャー」は、【こどもの城】全館を使ってラリー形式の遊びを楽しむプログラム。一か所ではなくいろいろな場所を使った遊びをしたい、あちこちを回って【こどもの城】の館内を知ってもらいたい、参加した子ども同士が自然にかかわりをもてるようにしたいと企画しました。小学校3・4年生以上が主な対象。

いろいろな場所に設けられたポイントを探し出し、与えられた課題をクリアしてゴールをめざします。各回ごとにテーマを決め、ポイントの

平成15年度「幼児グループ」会員募集中

保育研究開発部では、平成15年度の「幼児グループ」のメンバーを募集しています。幼児グループは、【こどもの城】を保育の場として、週4日(火~金曜日、午前10時~午後2時)、2年間にわたって継続的に活動する4・5歳児の保育グループ。曜日ごとにメンバーの異なる「保育クラブ」の3歳児が加わり、少人数の異年齢混合(3~5歳児)で活動します。

友だちのなかで生活体験を重ね、一人ひとりの感じと力、自分自身を表現する力を育てることが保育のねらいです。複数のスタッフが担当し、ボランティアの協力もえて、人のかかわ

青山劇場 03-3797-5678 http://www.aoyama.org
●25th ANNIVERSARY 渡辺真知子
●流木一郎
●遊・機械 全自動シアター THE LAST SHOW「クラブ・オブ・アリス」
●ドラマティック遊ワールド
●トロピカル ヒストリー ツアー

人形あそびのワークショップ~わくわくパペットランド~ 11月2~4日/11~3時30分/プレイホール 身近な材料で口がバクバク動く人形を作って、人形劇遊び。

秋のチャレンジゲーム大会 11月2~4日/11~4時/ふしぎが丘 ボランティアのみなさんが考えた、楽しいゲームいろいろ。

つくってあそぼう! 親子工房「こまのフ〜〜!!」 11月1~3日/10時30分、1時30分、3時30分/保育室1 親子でゆったり工作を楽しみます(1日の10時30分はお休み)。

●育児用品展示コーナー(11時30分)
●赤ちゃんとお母さんのすくすくたいそうI
●赤ちゃんとお母さんのすくすくたいそうII
●うたって、あそんで、ビヨビヨパーク!

「こどもの城」冬のカンパ参加者募集! 富士山の初冠雪のニュースが伝えられるなど、冬がかけあして近づいてきます。【こどもの城】では、冬休みにスキーや雪遊びを楽しむ野外活動「スキースクール パートI」1期・2期「ゆきんご冒険団」を行います。



遊びました。次回は、11月17日(2時~4時30分、プログラム未定)。12月1日と15日にも開催する予定です。

仲間と遊ぼう! 自然と遊ぼう!

スキースクール パートI 1期 初心者から上級者まで、レベルに合わせてスキーレッスン。12月26~29日/小2~中3/45人/妙高高原・池の平(新潟県)/57,000円/10月31日正午から電話で先着順に受け付け

1・2歳児親子対象に「よちよちクラブ」

1・2歳児の親子を対象に、保育のスタッフが中心となって手遊びやパネルシアターなどを親子で楽しんだり、気軽に子育ての悩みや話をしてゆったりと過ごす「よちよちクラブ」。8月と3月を除く毎月2回、5階保育室で開かれています。

こどもの城

【開館時間】土・日曜日・祝日...10:00~17:30 平日...12:30~17:30 【入館料】子ども(3歳以上18歳未満)...400円 大人...500円

「2001・9・11」は、アメリカだけでなく世界中に大きな衝撃を与えました。この事件は、政治、経済、文化など、さまざまな分野に影響をおよぼしました。ショウビジネスの中心であるニューヨークのブロードウェイもその例外ではなく、客足が遠のくなど「華やかな世界」も暗い雲に覆われました。

大型児童館の「遊びのボランティア」が交流 11月2~4日に「えひめこどもの城」で「じょいんフェスティバル」

2001年の「ボランティア国際年」をきっかけに、全国の大型児童館で活動している「遊びのボランティア」が情報交換や交流をしようと始まった「じょいんフェスティバル」。

全国15の大型児童館から遊びのボランティアが集まり、日常活動で取り組んでいる人形劇・紙芝居などの公演、それぞれのアイデアをもちよって考えたゲーム大会やクラフトをみんなで実施したほか、各館の活動を紹介する展示や学習会も行いました。

大型児童館で活動する遊びのボランティアの情報交換・交流の場として、大きな成果をあげた「じょいんフェスティバル」。継続して開催していこうと、今年度は「えひめこどもの城」と「富山県こどもみらい館」で開くことにしました。

【「じょいんフェスティバル」参加館】宮城県子ども総合センター中央児童館/秋田県児童館/栃木県子ども総合科学館/ぐんまこどもの国児童館/東京都児童館/富山県こどもみらい館/兵庫県立こどもの館/神戸市総合児童センター/こべっこランド/さぬきこどもの国/山口県児童センター/えひめこどもの城/福井県児童科学館 エンゼルランドふくい/大阪府立大型児童館 ビックパン/三重県立えひめこどもの城/こどもの城(東京) (順不同)



「じょいんフェスティバル」では、十五歳以上二十歳未満のボランティアが参加し、こどもの城に遊びに来た子どもや家族を対象に、ゲームやクラフト、人形劇の公演などを行いました。

第30回NCC杯バンパー大会

高木さん(小学生の部)と矢口さん(中学生の部)が優勝 第30回NCC杯バンパー大会が、8月31日に開かれました。例年は、春分の日と秋分の日で開催していましたが、今回はより多くの人に参加してもらおうと夏休み最後の土曜日に開催することにしました。

10・11月のBスタジオの催し

10月20日/11月3日/17日 手作り楽器のワークショップ「フィルムケースの笛」 1時30分~2時30分、3時30分~4時30分 フィルムケースを使って2種類の「鳥笛」を作ります。小学生1年生以上。定員30人。15分前から会場で受け付けします。

11月10日 こどもの城映画劇場「カナダのアニメーション」

世界的に高い評価を得ているカナダのアニメーション。「動き」や「音(音楽や効果音など)」から、登場人物の心の動きなどが理解できるように作られています。

「レ・ミゼラブル」「ラ・マンチャの男」「ジキルとハイド」「レント」などから、普遍的な人間の気持ち「愛」の大切さを、さまざまなナンバーに乗せて観客へ伝えました。最後に、出演者を代表して村井国夫さんが「同じ劇場人として、何か

できることはないか、と始めました。みなさんのおかげで、わずかながらもお役に立つことができました。これからも、ハンディを持った人、若い劇場人のために、何かできること——チャリティを続けていきたい」とあいさつ、客席から大きな拍手が贈られました。